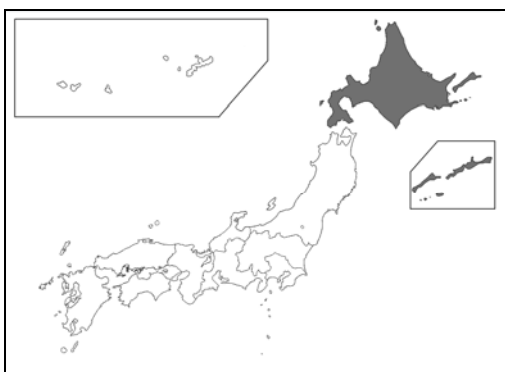


### 3 地域別の動向

#### (1) 北海道



北海道地域では、景気は持ち直し基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(   は上方に変更、   は下方に変更)

#### 前回調査からの主要変更点

	前回(平成26年8月)	今回(平成26年11月)
鉱工業生産	消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響もあって、このところ弱含んでいる	<u>おおむね横ばい</u>
住宅建設	減少	大幅に減少
雇用情勢	着実に改善	改善

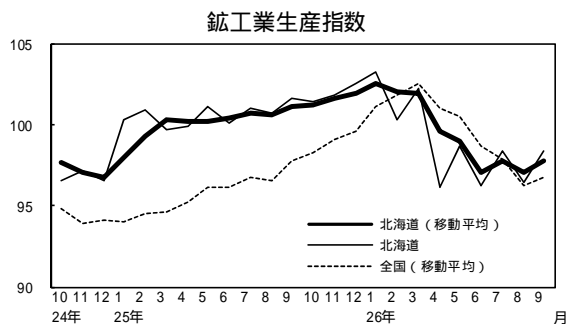
#### 1. 生産及び企業動向

(1) 第一次産業は、生乳生産、水産業の水揚量ともに前年を下回っている。

7～9月期には、生乳生産は移出量及び乳製品向けが減少したため、総量では958,362tと前年比0.7%減となった。水産物の水揚量(主要8港)は、ほっけ等が減少したため、前年比6.1%減となった。

(2) 鉱工業生産は、おおむね横ばいとなっている。

7～9月期には、食料品は、冷凍水産物及び冷凍調理食品が水産物の水揚が好調だったことから増加した。パルプ・紙は、新聞巻取紙及び印刷用紙が一部の工場で集中豪雨の影響により取水トラブルが発生したこと等から減少した。電気機械は、水晶振動子及びシリコンウエハがパソコン、スマートフォン向けがアジア市場で好調だったこと等から増加した。鉄鋼は、普通鋼棒鋼が道内の建設需要が好調だったこと等から増加した。輸送機械は、自動車駆動伝導装置が一部の工場で生産ラインの移行がスムーズに進まなかったこと等から減少した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		4～6 月期	7～9 月期	7月	8月	9月
食料品	24.2	3.1	2.6	3.8	2.9	4.0
パルプ・紙	11.9	6.4	1.7	2.5	4.9	0.1
電気機械	11.7	14.4	0.7	3.4	6.4	12.2
鉄鋼	7.5	0.2	3.3	3.3	1.8	0.2
輸送機械	7.0	3.2	8.4	6.1	0.5	0.2
鉱工業	100.0	4.8	0.7	2.3	2.0	2.1

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

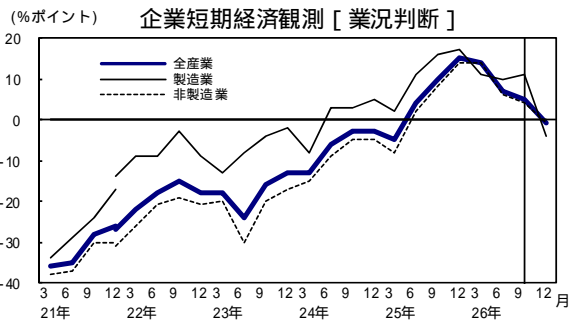
2. 7～9月期、9月は速報値。

(備考) 1. 22年=100、季節調整値。最新月は速報値。

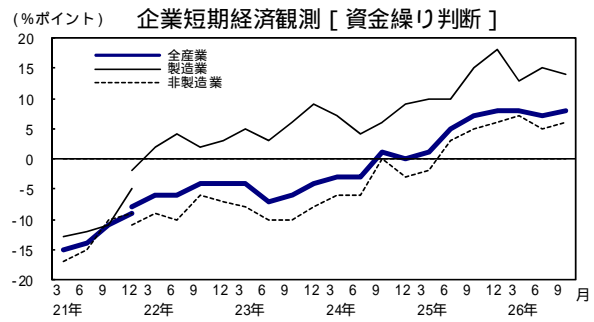
2. 全国及び北海道の太線は後方3か月移動平均。

(3) 業況判断は「良い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

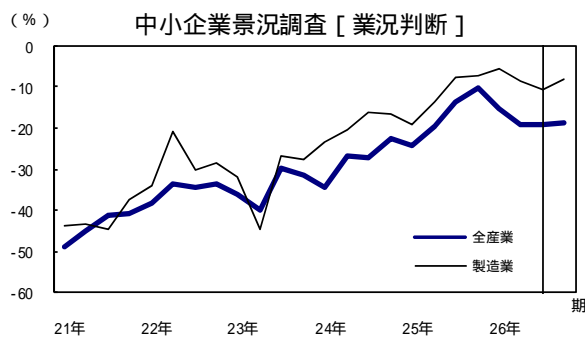
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。26年12月は予測。21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。21年12月は新・旧基準を併記。

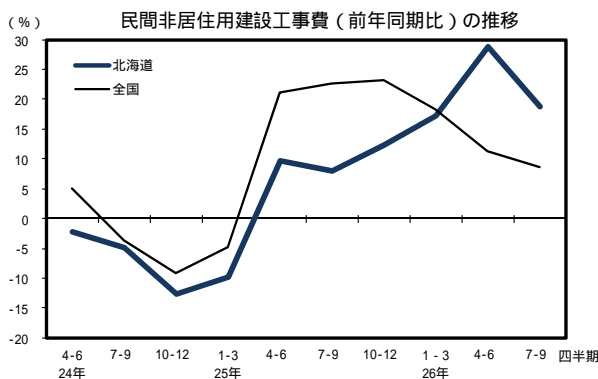


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。26年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

「取扱商材の一部が品薄状態になるなど、販売量、売上とも好調に推移している。ただし、円安の影響により原材料価格が上昇しており、収益の減少が懸念される(その他非製造業[鋼材卸売])」などの回答がみられた。

(4) 設備投資の民間非居住用建設工事は大幅に増加している。



企業短期経済観測調査[設備投資(9月調査)]

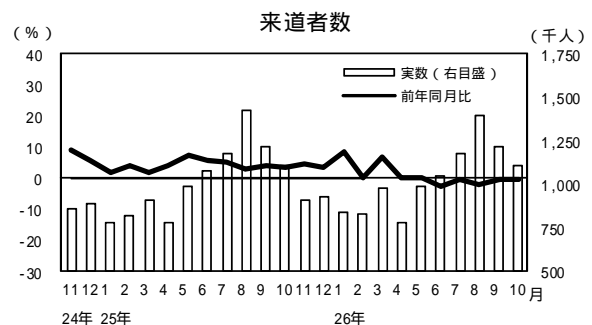
(前年度比、%)

	25年度実績	26年度見値
全産業	0.8	16.8( 0.3)
製造業	14.7	3.2( 2.1)
非製造業	15.6	31.0( 1.7)

(備考) 1.( )は前回(6月)調査比修正率。電気・ガスを除く。

2.リース会計対応ベース。

(5) 観光は、おおむね横ばいで推移している。来道者数は、荒天に伴い鉄道、船等で運休が相次いだ影響等により減少した。



(備考)北海道観光振興機構調べ。

(1) 北海道

2. 需要の動向

(1) 個人消費は、持ち直しの動きがみられる。

地域別消費総合指数（RDEI（消費））

7月は前月比1.0%減、8月は同0.9%増、9月は同1.2%減となった。

大型小売店販売額

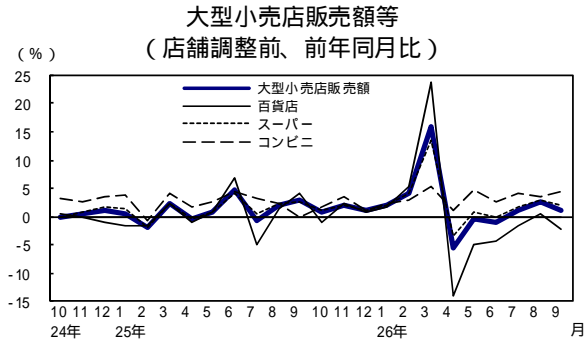
百貨店は、7月は、衣料品、身の回り品、飲食料品が前年を下回った。8月は、衣料品、身の回り品は前年を下回ったものの、飲食料品、その他は前年を上回った。9月は、飲食料品は前年を上回ったものの、衣料品、身の回り品、その他は前年を下回った。

スーパーは、衣料品、身の回り品は前年を下回ったものの、飲食料品は前年を上回った。

景気ウォッチャー調査（10月）[家計動向関連（現状）]

北海道地域の家計動向関連DIは、41.3となり前月より4.4ポイント低下した。

「電気料金値上げなどの影響もあり、客は必要な分しか買わなくなっている（百貨店）」など、「悪くなっている」とする回答が増加した。

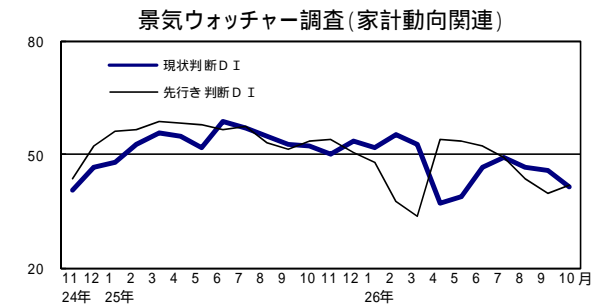
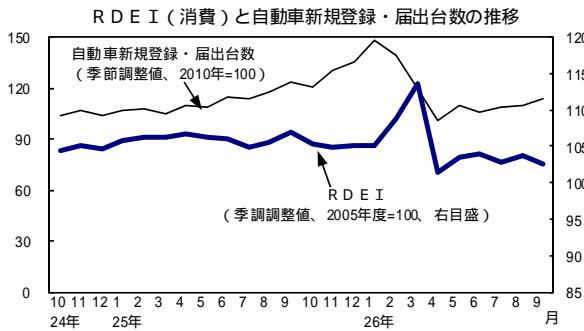


	26年7-9月	26年7月	8月	9月
RDEI（消費*1）	0.1	1.0	0.9	1.2
大型小売店(*2)	1.6	1.1	2.5	1.1
百貨店(*2)	1.1	1.5	0.5	2.3
スーパー(*2)	2.3	1.8	3.0	2.1
コンビニ(*2)	3.9	4.0	3.4	4.3
乗用車(*3)	6.2	4.8	8.1	6.3
(季節調整値)(*3)	5.3	3.1	0.9	4.0

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比(%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

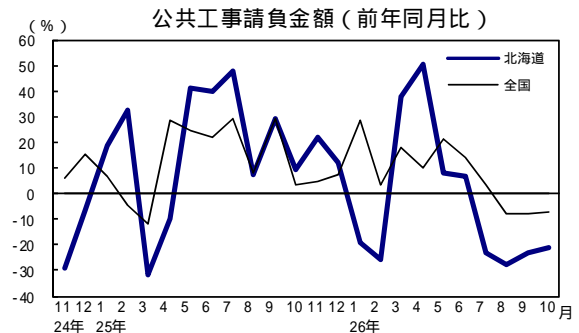
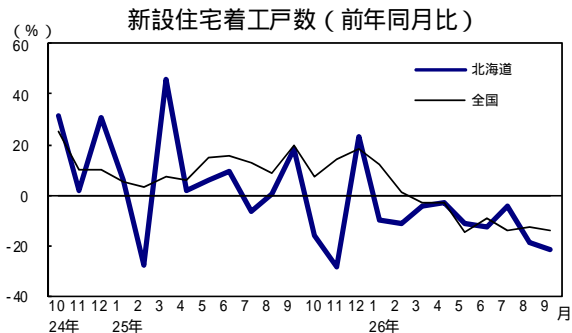
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%) )



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

持家、貸家、分譲が前年を下回ったことから、全体では大幅に減少している。

(3) 公共投資は26年度累計で見ると前年度を下回っている。

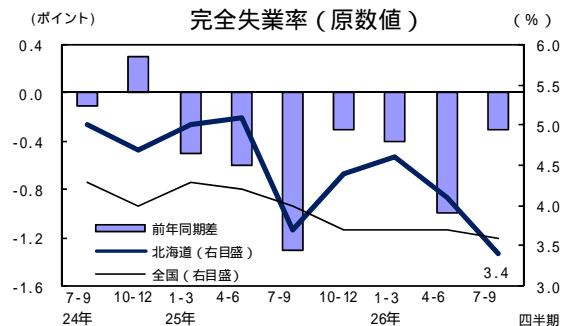
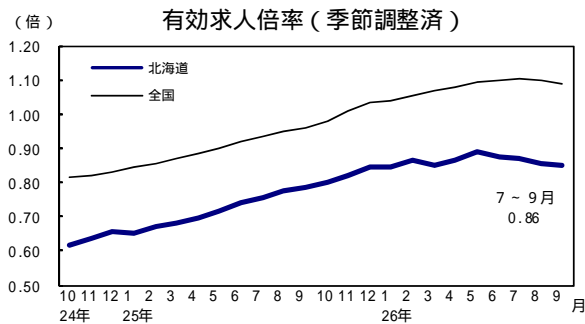


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は、改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査（10月）[雇用関連（現状）]

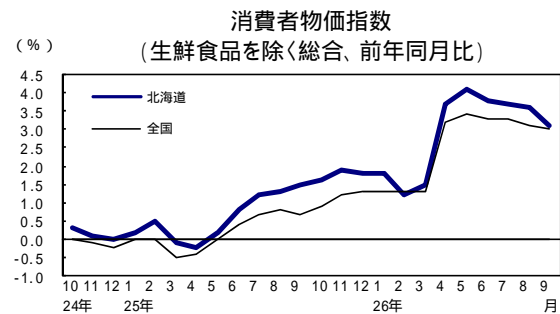
「若干ではあるが、地方都市の求人数が減少し始めている。一般的に、小売に勢いが感じられなくなっている（求人情報誌製作会社）」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数は減少しているものの、負債総額は増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が縮小している。

#### 企業倒産

	(件、億円、%)				
	25年10-12月	26年1-3月	4-6月	7-9月	26年10月
倒産件数	69	92	77	73	22
(前年比)	23.3	16.4	19.8	3.9	15.4
負債総額	139	157	176	151	20
(前年比)	35.7	54.1	96.7	20.0	77.1



景気ウォッチャー調査（10月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

・海外旅行については、円安やエボラ出血熱などの影響で高単価のヨーロッパ方面の受注が激減している(旅行代理店)。

<先行き>

・セール品よりも定価品で回復が進んでおり、シーズン先行の購入意欲が感じられる。自分の価値観に納得できれば、高額商材の購入も迷わない客が多い(百貨店)。

